横浜市立　小田小学校　学校評価報告書　（ 令和 元 ~ 3 年度 ）

重点取組分野	令和 元 年度 具体的取組	令和 元 年度 自己評価結果	総括
生きて はたらく知	「開かれた楽しい授業」に向け、重点研テーマ「自分の考えをもち 学び会う子」を設定し授業改善を図る。重点研では、各教科において、自分の考えをもち表現したいと思える学習場面を設定し、考えを伝え合う中で改題解決に向かい、多角的な考えをもてるようにする。	・授業中、困ったときはいつでも友達に聞き合える関係づくりを意識して授業を行ってきた。低学年はペアでの学びを基本とし、学年が上がるにつれて少人数グループで学び合うなど、発達段階に応じた学び合いの姿を模索（研究）してきた。子どもが互いにサポートし合える関係を作った上で、今後は配慮が必要な児童に対する具体的な支援や発展的な課題の提示などについても考えていきたい。	B
豊かな心	・子どもの実態を大切にした、道徳の授業や人権教育（人権週間を含む）を大切にして、全学級道徳の授業公開を年1回実施し、懇談会等でも日頃の様子や授業の様子について話題に出すようにする。 ・たてわりふれあい活動や委員会活動の取り組みを充実させ、小田小ならではのよい伝統である異学年交流の日常化を継続していく。 ペア学年に関わらず、学習や行事を通じた意図的な交流の充実を進めていく。 ・KCSや学援隊を含めた地域の方々との交流を行い、感謝の気持ちがもてるようにする。	・道徳教育と家庭教育の連携が図れた。また、懇談会でも道徳の授業での意見交換ができた。 ・たてわり活動は学校全体でしっかりと取り組めているので、児童が意識をもって活動している。 ・たてわり活動やペア活動、人権週間、体験活動を充実させ、規範意識の向上と自他を大切にする心を育てることに努めた。	B
健やかな体	・体力向上一校一実践として行う長縄集会に向けて、学級で意図的・計画的に取り組む。また、「縄跳びの日」も設定し、意欲的に取り組めるようにすることで体力の向上に励む。 ・自らの健康を考え、望ましい食習慣について学べるように、全学年でバランスイーナワークに取り組む。	・小中合同学校保健委員会について、参加した児童からの報告の機会を設けたが、クラスの児童の定着に至っていない。 ・学級としては十分に取り組めていたと考えるので、学校全体として取り組めるようにしていきたい。 ・給食指導と家庭科の連携が図れた。バランス［illegible］	A
児童指導	・学習スタンダードを徹底し、学校全体で同じ方向を向いて指導・支援をし、定着を図るようにする。 ・生活目標を「あいさつをしよう」「整えよう」に特化し、すすんで取り組めるように意識を高めていく。 ・小さなことでも丁寧に対応していくために、報告・連絡・相談がいつでもできる学年研を中心とした、風通しのよい体制のもと、すすめる。必要の応じて、専任・養護教諭を含めたチーム体制での取り組みを充実させる。	・スタンダードに対する取り組みの温度差を同じにしていくため、特に温度差が出やすい項目を、『小田小スタンダード要約版「あしなみ」』として再編集した。 ・生活目標の更なる重点化を図っていきたい。必要に応じて、毎月の児童指導部内で振り返りを行い、各学年での取り組み状況を確認していく。	A
地域連携	・学校支援活動について検討する協議会 開催 ・地域等への普及啓発、広報活動 ・昨年度の実績をもとにした学校支援ボランティア活動の作成と運用 ・学校支援活動の実施・学習支援活動・校内環境美化支援活動・図書館支援活動等の充実 ・年間計画とその活動実績をまとめ、次年度以降利用できるようにする。	・運動会、学校保健委員会、部活動体験などの児童生徒交流、児童の地域行事への参加を通して、地域の一員としての意識が高まるよう努めた。 ・学校情報を学校便りなどを活用し、積極的に発信した。 ・地域連携事業KCSの活動を充実させ、地域と協働した学校づくりをすすめた。	B
特別支援	・交流級や交流学年と個別指導の連携を強化していくために日々報告・連絡・相談をしていく。 ・個別支援学級の環境整備を行い、ユニバーサルデザイン教育について理解し、実践していく。 ・合理的配慮についても適切に行っていく。	・合理的配慮は、教職員が授業方法の工夫を模索する中で、日頃からクラスの中でかなり実践されていることが多い。一方で、それを合理的配慮と自覚して保護者と共有できていないところも見受けられる。来年度、必要に応じて、合理的配慮の研修を行い、個別の支援計画・指導計画に反映させられるようにする。	B
国際交流	・YICAのカリキュラムとの統合性を図り、YICAの学習で学んだことを生かすことのできる年間計画を立て、計画的に交流を進める。 ・全校児童が姉妹校への相手意識を持続できるよう、朝会でぬいぐるみ交流や相手校の様子などを報告する場を定期的に設定する。 ・全校児童がオーストラリアの児童とバディを組み、行事などの折にメッセージ交換を行う。	・ぬいぐるみ交流を行うことでどの学年もオーストラリアや姉妹校のソルウェイ小学校への関心が高まり、相手意識をもつことにつながった。 ・交流のペアを年度切り替えではなく、卒業まで固定する方針に変えたことで、ペアへの相手意識が高まっているため、今後も継続していく必要がある。 ・今後はさらにYICAのカリキュラムとの連携を図り、交流の回数を増やしたり、内容を深めたりできるようにしていきたい。	B
学校運営協議会	・小田中学校との小中合同学校運営協議会を立ち上げ、小中9年間の児童・生徒の成長を連携して支えていく地域の力としての運営協議会の土台を築く。 ・小中合同学校運営協議会の利点を生かし、よりコミュニケーションの力を高める小中合同の活動を行い、「9年間で育てる子ども像」を目指す。	・小中合同学校運営協議会が立ち上がり、小中を通して児童生徒を育む地域の要としての役割を担う土台作りができた。 ・小田中学校卒業までの9年間で育てる子ども像を小田小中の地域で共有することができ、地域との連携が強まった。	B
いじめへの対応	・月1回いじめ防止対策委員会を実施し、全校で見守る姿勢を大切に、再発防止及び予防・開発に努める。 ・年2回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりを行うとともに、現状の把握に努める。 ・心配なことがあったら、即時的に対応チームを作り、スピード感のある対応を進めていく。	・月1回の定例のいじめ防止対策委員会以外にも、いじめ防止対策委員会の全体会を年2回・児童理解研修を年2回行い、全教職員での共通理解を図っている。また、各月の職員会議の中でも、児童理解の時間を設けている。その中で、全校で見守る姿勢は大切にできていると思うので、対処・対応ではなく予防・開発の視点を忘れずに、今後も取り組んでいく。 ・学年主任、専任を中心に、「いじめは学校内で起こりうること」という前提のもと、児童間トラブルを隠すことなく、報告・連絡・相談の体制をとることができている。今後も、現在のスピード感のある対応を継続していく。	A
人材育成・組織運営（働き方改革）	・5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の活動を継続して行う。 ・週に1回、主幹教諭調整会を行い情報の共有を図る。 ・子どもと向き合う時間を確保するため、掲示板の活用、朝会や打ち合わせの簡潔化、会議の精選を行う。	・メンター研修を月1回行い、授業の見合い、改善の話し合いなどの活動を行った。新学習指導要領の研修、研究もメンターで取り組んでいきたい。	B
ブロック内評価後の気付き	・ほぼ全教科による研究授業を実施した。また、研究協議会では、各教科に分かれて話し合いを行ったので、専門的な深まりがあったり、児童理解の深まりなどがあった。 ・小中合同研修会では、講師の先生をお招きして、現在の人権教育の動きや小中での人権教育の連携についてなどご指導を頂き、今後の小中合同人権教育につながると考えた。 ・小学校の運動会に中学生がボランティアとして活動したり、職場体験では、小学校の授業を自分で検討し、実際にT1として行うなど、小中が無理のない内容で連携をはかっている。		
学校関係者評価	・たてわり活動で取り組んでいる異学年交流による豊かな心のふれ合いが、子どもたちの日常でも自然と表れている。そういったところで育ったよさを中学校へもつなげられるとよい。 ・主体的に、課題解決に向かっていく児童を育てる授業改善が進められていることがわかる。 ・小中との連携が強くなることで、地域の子どもたちをしっかり育てようとする学校の姿勢が伝わった。		
中期取組目標振り返り	・「開かれた楽しい授業」をめざして、子どもたちの関わり合いから授業改善を図る視点が根づいた。来年度も互いにサポートし合う関係を築き、カリキュラムマネジメントも含めた授業改善を中学校とも連携していきたい。 ・たてわり活動や児童指導を丁寧に日々チームで取り組んだ成果で、高学年になるにつれ友達との関わりが深くなっている。地域のあたたかい協力もそれを後押ししている。		

重点取組分野	令和 2 年度 具体的取組	令和 2 年度 自己評価結果	総括
生きて はたらく知	「開かれた楽しい授業」に向け、重点研テーマ「自分の考えをもち 学び会う子」を設定し授業改善を図る。重点研では、各教科において、自分の考えをもち表現したいと思える学習場面を設定し、考えを伝え合う中で改題解決に向かい、多角的な考えをもてるようにする。	ペアやグループでの話し合いなど、様々な活動が制限される中で、教師がどのような役割を担えば子ども同士の学びをつなぐことができるのか試行錯誤を続けた。今年度は、ペアやグループでの対話を全てなくすのではなく、必要な場面で効果的に行うことや、時間を極力短くすることなどを意識した。全体指導の中で何かを考えさせたり、話したりすることが多くなったが、子どものつぶやきや考えから学びを生み出すために、教師が果たすべき役割の重要さを改めて実感した。今後も、授業のスタイルとして、制限や変化が多くあることが予想されるが、子ども一人一人の思いや考えを大切にし、子どもがわかる楽しさや学ぶ喜びを感じられるようにしていきたい。	B
豊かな心	・子どもの実態を大切にした、道徳の授業や人権教育（人権週間を含む）を大切にして、全学級道徳の授業公開を年1回実施し、懇談会等でも日頃の様子や授業の様子について話題に出すようにする。 ・たてわりふれあい活動や委員会活動の取り組みを充実させ、小田小ならではのよい伝統である異学年交流の日常化を継続していく。ペア学年に関わらず、学習や行事を通じた意図的な交流の充実を進めていく。 ・KCSや学援隊を含めた地域の方々との交流を行い、感謝の気持ちがもてるようにする。	・授業公開は実施できなかったが、限られた授業時間の中で道徳の授業や人権教育をていねいに行い、子ども一人一人に目を向けて指導をすすめた。 ・たてわり活動は例年のような形は難しかったが、スポーツを通したふれあい活動やペア学年での手紙交換など、新しい形での交流をすすめ,自他を大切にする心を育てることに努めた。	B
健やかな体	・体力向上一校一実践として行う長縄集会に向けて、学級で意図的・計画的に取り組む。また、「縄跳びの日」も設定し、意欲的に取り組めるようにすることで体力の向上に励む。 ・自らの健康を考え、望ましい食習慣について学べるように、全学年でバランスイーナワークに取り組む。	・体力向上一校一実践として取り組む「長縄集会」に関しては、今期の状況を鑑み、十分に取り組むことが出来なかった。しかし、体つくりの一環として、全学年、短縄に取り組み、スポーツ集会等でその成果を十分に発揮することができた。 ・バランスイーナワークは、年間を通して計画的に取り組むことができ、一人一人が自らの健康を振り返り、食習慣を見直すことができた。	B
児童指導	・学習スタンダードを徹底し、学校全体で同じ方向を向いて指導・支援をし、定着を図るようにする。 ・生活目標を「あいさつをしよう」「整えよう」に特化し、すすんで取り組めるように意識を高めていく。 ・小さなことでも丁寧に対応していくために、報告・連絡・相談がいつでもできる学年研を中心とした、風通しのよい体制のもと、対応をすすめる。必要に応じて、専任・養護教諭を含めたチーム体制での取り組みを充実させる。	・長い休校期間を経ての学校再開だったため、中丸スクールカウンセラーによる「学校再開時における心のケアについて」職員研修を実施した。 また、学校再開スタートプログラムを実施することで、穏やかな気持ちで関わりをもてるような活動を意識的に設定した。 ・あいさつ運動については、代表委員会でも議題にして、校内で積極的に取り組めるようエ夫した。 ・感染症防止対策においても、新たにスタンダードを検討し、登校時や給食指導を中心に、学校全体で取り組んできた。 ・学校全体として、担任自身で抱えず、すぐに報告・連絡・相談する雰囲気ができており、チームで取り組む方向性を継続していきたい。	B
地域連携	・学校支援活動について検討する協議会 開催 ・地域等への普及啓発、広報活動 ・昨年度の実績をもとにした学校支援ボランティア活動の作成と運用 ・学校支援活動の実施・学習支援活動・校内環境美化支援活動・図書館支援活動等の充実 ・年間計画とその活動実績をまとめ、次年度以降利用できるようにする。	・学校保健委員会、子ども会議などの児童生徒交流を通して、地域の一員としての意識が高まるよう努めた。 ・学校情報を学校便りなどを活用して発信した。 ・制約が多い中で、学援隊による登下校の見守りボランティア、学校園の整備・充実、読み聞かせ活動など、地域連携事業をできる範囲で充実させ、地域と協働した学校づくりをすすめた。	B
特別支援	・個別支援学級の児童の交流級や交流学年と指導の連携を密にしていくために日々報告・連絡・相談をしていく。 ・個別支援学級の環境整備を行い、ユニバーサルデザイン教育について理解し、実践していく。 ・合理的配慮についても適切に行っていく。	・学年行事や交流している児童の様子や取り組み、家庭からの情報などについて、管理職や交流級担任、児童支援専任と適宜相談して共有し、その都度対処するようにした。 ・3つの教室を整理・整とん、整備を行い、常に整えるようにお掛けた。数字へのこだわりが強い児童がいたため、カレンダーや献立表など目に触れるものの位置や見せ方をエ夫した。子どもの理解を意識して、指示や約束事を明確にし、視覚的に理解できるよう教室内に掲示した。 ・学習活動において、発達段階やその子の特性に合わせて、配慮した指導を行った。パーテーションを活用するなどして、刺激を遮断し、学習に集中できるようにした。 ・合理的配慮については、支援センター機能を利用して、金沢養護学校の先生によ	B
国際交流	・YICAのカリキュラムとの統合性を図り、YICAの学習で学んだことを生かすことのできる年間計画を立て、計画的に交流を進める。 ・全校児童が姉妹校への相手意識を持続できるよう、朝会でぬいぐるみ交流や相手校の様子などを報告する場を定期的に設定する。 ・全校児童がオーストラリアの児童とバディを組み、行事などの折にメッセージ交換を行う。	・手紙交流の回数は少なかったが、YICAで学習したことを生かした内容を意識して、手紙を書くことができた。今年度は計画通りの交流が難しかったので、来年度はもう少し交流の回数を増やしたい。 ・郵便事情によりぬいぐるみ交流ができなかった。最近は郵便事情も改善がみられるため、来年度は交流を行っていく。	B
学校運営協議会	・小田中学校との小中合同学校運営協議会に取り組み、小中9年間の児童・生徒の成長を連携して支えていく地域の力としての運営協議会の土台を築く。 ・小中合同学校運営協議会の利点を生かし、よりコミュニケーションの力を高める小中合同の活動を行い、「9年間で育てる子ども像」を目指す。	・小中を通して児童生徒を育む地域の要としての組織が確立した。 ・小田中学校卒業までの9年間で育てる子ども像を小田小中の地域で共有することができ、地域との連携が強まった。 ・書面協議会を開催したが、その後にも活発な意見をいただき、有意義な協議会だった。	B
いじめへの対応	・月1回いじめ防止対策委員会を実施し、全校で見守る姿勢を大切に、再発防止及び予防・開発に努める。 ・年2回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりを行うとともに、現状の把握に努める。 ・心配なことがあったら、即時的に対応チームを作り、スピード感のある対応を進めていく。	・月例のいじめ防止対策委員会では、「いじめ」認知事案についてはもちろん、その未然防止につながる子どもたちの変化や児童理解についても詳しく話し合うことができている。 ・トラブルを含めた事実などがあった際には、すぐに学年職員や管理職・専任に報告があがり、即時的にいじめ認知・対応などを検討することができている。 ・年2回の学校生活アンケートに加え、横浜プログラムのアンケートも実施し、子どもたちの居場所感などを含めた見取りに生かしている。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	・5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の活動を継続して行う。 ・週に1回、主幹会議を行い情報の共有を図る。 ・子どもと向き合う時間を確保するため、掲示板の活用、朝会や打ち合わせの簡潔化、会議の精選を行う。	・メンターチームのリーダーを中心に、年間を通して計画的に運営することができた。先輩教員の授業を積極的に研究したり、タブレット等、ICTの研修にも十二分に取り組むことができた。 ・主幹会議や、打ち合わせ等の時間を効率的に確保・運用することができた。打ち合わせや職員会議等、しっかりと情報共有ができるようにハード面の整備にも努めることができた。	B
ブロック内評価後の気付き	・感染症拡大防止策に努めながら、研究授業を実施した。また、研究協議会では、各教科に分かれて話し合いを行い、来年度の教科会設置に弾みをつけた。 ・小中合同研修会では、SDGsについて小中での研修を行い、各教科ごとにSDGsの17の項目を検討した。 ・横浜子ども会議の話し合いを生徒会と児童計画運営委員会で、共通理解を持ち、小学校5年生と中学校2年生がグループを作り交流を通して話し合った。来年度にどのようにつなげていくか見通しを持てた。		
学校関係者評価	・感染症予防のために、本校の特色であるたてわり活動が思うようにできなかったが、この特色を来年度に残してほしいという思いが多くの方からご意見としていただいた。 ・感染症拡大防止策を地域・保護者・学校が一体となって、行えることを進んで行おうとしていることが分かった。また、授業においても、感染症拡大防止策を意識しながら行っていることが分かった。 ・小中との連携が強くなることで、地域の子どもたちをしっかり育てようとする学校の姿勢が伝わった。		
中期取組目標振り返り	新型コロナウィルス感染症の予防のため、例年行っていた小中交流も十分行えない中ではあったが、併設型小中一貫校として、9年間を見すえた小中の教員の交流や中2、小5の生徒児童の交流ができ、今後の推進への大きな布石となった。 ・授業の改善も制限のある中、新しい教育課程にふさわしい学びをできることから始めた。子どもどうしの関わりから深める授業をめざし、子どもたちに学ぶ楽しさを実感させていくための教師のあり方を追究した。		

重点取組分野	令和 3 年度 具体的取組	令和 3 年度 自己評価結果	総括
生きて はたらく知	・「開かれた楽しい授業」に向け、重点研テーマ「一人も独りにしない学びを目指して」を設定し授業改善を図る。重点研では、各教科において、自分の考えをもち判断し、表現したいと思える学習場面を設定し、共に学び合う中で改題解決に向かい、多角的な考えをもてるようにする。		
豊かな心	・子どもの実態を大切にした、道徳の授業や人権教育（人権週間を含む）を大切にして、全学級道徳の授業に力を入れ、懇談会等でも日頃の様子や授業の様子について話題に出すようにする。 ・たてわりふれあい活動や委員会活動の取り組みを充実させ、小田小ならではのよい伝統である異学年交流の日常化を継続していく。 ペア学年に関わらず、学習や行事を通じた意図的な交流の充実を進めていく。 ・KCSや学援隊を含めた地域の方々との交流を行い、感謝の気持ちがもてるようにする。		
健やかな体	・体力向上一校一実践として行う長縄集会に向けて、学級で意図的・計画的に取り組む。また、「縄跳びの日」も設定し、意欲的に取り組めるようにすることで体力の向上に励む。 ・自らの健康を考え、望ましい食習慣について学べるように、全学年でバランスイーナワークに取り組む。		
児童指導	・学習スタンダードを徹底し、学校全体で同じ方向を向いて指導・支援をし、定着を図るようにする。 ・生活目標を「あいさつをしよう」「整えよう」に特化し、すすんで取り組めるように意識を高めていく。 ・小さなことでも丁寧に対応していくために、報告・連絡・相談がいつでもできる学年研を中心とした、風通しのよい体制のもと、対応をすすめる。必要に応じて、専任・養護教諭を含めたチーム体制での取り組みを充実させる。		
地域連携	・学校支援活動について検討する協議会 開催 ・地域等への普及啓発、広報活動 ・昨年度までの実績をもとにした学校支援ボランティア活動の作成と運用 ・学校支援活動の実施・学習支援活動・校内環境美化支援活動・図書館支援活動等の充実 ・年間計画とその活動実績をまとめ、次年度以降利用できるようにする。		
特別支援	・個別支援学級の児童の交流級や交流学年と指導の連携を密にしていくために日々報告・連絡・相談をしていく。 ・個別支援学級の環境整備を行い、ユニバーサルデザイン教育について理解し、実践していく。 ・引き続き、特別支援教室の充実を通して、すべての児童が安心して学習意欲の向上を目指していけるよ		
国際交流	・YICAのカリキュラムとの統合性を図り、YICAの学習で学んだことを生かすことのできる年間計画を立て、計画的に交流を進める。 ・全校児童が姉妹校への相手意識を持続できるよう、朝会でぬいぐるみ交流や相手校の様子などを報告する場を定期的に設定する。 ・全校児童がオーストラリアの児童とバディを組み、行		
学校運営協議会	・小田中学校との小中合同学校運営協議会に取り組み、小中9年間の児童・生徒の成長を連携して支えていく地域の力としての運営協議会の土台を築く。 ・小中合同学校運営協議会の利点を生かし、よりコミュニケーションの力を高める小中合同の活動を行い、「9年間で育てる子ども像」を目指す。		
いじめへの対応	・月1回いじめ防止対策委員会を実施し、全校で見守る姿勢を大切に、再発防止及び予防・開発に努める。 ・年2回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりを行うとともに、現状の把握に努める。 ・心配なことがあったら、即時的に対応チームを作り、スピード感のある対応を進めていく。		
人材育成・組織運営（働き方改革）	・5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の活動を継続して行う。 ・週に1回、主幹会議を行い情報の共有を図る。 ・子どもと向き合う時間を確保するため、掲示板の活用、朝会や打ち合わせの簡潔化、会議の精選を行う。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			